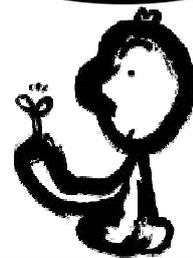


# しみん基金・KOBÉ NEWS

第17号

2008年12月発行



## 特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

### ボランティアの心技体と寄付文化の醸成

阪神・淡路大震災以降のNPOやボランティアの献身的で精力的な活動は、これからの社会において、ボランティアなセクターが行政および市民と並んで、社会の中心的な担い手となることを実感させるものであった。ところで、ボランティアがこの期待に応えていくためには、ボランティアの資質としての「心・技・体」の獲得が欠かせない。1番目の心というのは「社会的な信頼」をいう。この社会的な信頼を獲得するためには、博愛、正義、献身といったボランティアのバックボーンとなる高い精神性がなければならない。被災者などと真剣に向き合う中から、こうした精神性は醸成されていく。2番目の技というのは「技能的な資質」をいう。行政にも市民にもない技能をもっていることで、ボランティアでしか果たせない領域をカバーすることができる。災害対応など人命にかかわる場合はなおさらである。専門ボランティアや技能ボランティアが求められる所以である。ところで、それ以上に重要なのが3番目の体である。この体というのは、活動を持続させ発展させるうえで欠かすことのできない体力のことで、ここでは「経済的な基盤」を意味している。活動を支える兵糧がなければどうにもならない。「武士は食わねど高楊枝」であってはならないのである。

ところで、日本のボランティアに最も欠けているのが、3番目の経済的な基盤である。資金難から、ボランティア組織が活動を停止したり、有為な若者が戦列を離れていくのを見ると、とても悲しい。ということで、財政難を克服し安定した財政基盤を確立するために、何倍ものエネルギーをそこに注がなければならない、と思う。さて、財政基盤づくりでは、自助としての会費や事業、共助としての寄付や基金、公助としての助成や補助のそれぞれにおいて、その充実拡大をはかることが欠かせない。寄付税制の貧困なことから寄付文化がわが国で定着せず、それがボランティアの経済基盤を危くしていることは、確かである。しかし、それだけなのかというと、決してそうではない。市民の側でも寄付や募金の文化を育てる努力をしていない、という「自らの欠陥」を直視しなければならない。災害ボランティアに特定した募金運動の展開、マイレージなどのポイントを基金として寄付する運動、募金企業のレタテルが張られた製品を購入する運動など、市民主体で財政基盤を確立する道はいろいろ考えられる。「しみん基金・KOBÉ」が寄付文化あるいは基金整備の進展のために、強いリーダーシップを発揮することを願ってやまない。

関西学院大学・災害復興制度研究所 室崎益輝

((特活)しみん基金・KOBÉ 理事)

#### 主な目次

- |                                 |                                     |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| ◆ 平成20年度しみん基金・こうべ助成事業のご報告 - 2   | ◆ 1.17メモリアル・コンサートご案内 ----- 6        |
| ◆ 平成20年度助成先団体一覧 ----- 2~4       | ◆ コラム「市民社会を支えるお金の流れを考える」(3) ----- 7 |
| ◆ 新理事のご紹介 ----- 5               | ◆ 13年目のひとり言 ----- 8                 |
| ◆ しみん基金 KOBÉ 活動報告(7~9月) ----- 5 | ◆ 会員数と寄付のご報告 ----- 8                |



## 平成20年度しみん基金・こうべ助成事業のご報告《速報》



平成20年10月23日(木)13時から、神戸市生涯学習センター(コムスタ・こうべ)にて、平成20年度しみん基金・こうべ助成事業の公開審査会を行い、別表のとおり助成先を決定いたしました。この事業の実施にあたりまして多くの方々の貴重なご指導・ご協力を賜りましたことに心より感謝いたします。

今年度の助成事業は、高野山真言宗に設けられた「共利群生(きょうりくんじょう)活動支援基金」(1)からの寄付金により実施いたしました。開会にあたりまして高野山真言宗永島龍弘師より、「いのちあるものすべてが共に助けあうことが大切であるという思いから、このたびはしみん基金 K O B E へ寄付金を付託いたしました。」とご挨拶を頂きました。

その後、21団体から各々の助成を受けたい事業の内容と助成金の使途などについてプレゼンテーションを行って頂き、審査員との活発な質疑応答がありました。

すべての発表が終わり、審査員による公開投票を行い、一般枠の助成先8団体が選考されました。

その後、同日の当基金理事会にて、公開審査会の結果を受けて別表のとおり(少額枠：10団体、一般枠：8団体)の各団体の事業に合計3,765,000円を助成することが承認されました。

なお、少額枠とは、助成申請のあった団体の中から申請額が10万円以下のもので当基金の趣旨に合った団体の事業を、書類選考のみで決定いたしました。

応募総数は78件で、過去最高の応募件数でした。

その後、9月11日の当基金役員運営会議にて書類選考を行い、21団体の方々に公開審査会でプレゼンテーションを行っていただくことになりました。また同時に、少額枠の助成先10団体を内定いたしました。

その後、9月下旬から10月上旬にかけて、当基金の理事が手分けして各団体の活動場所を訪ね、ヒアリング調査を実施いたしました。各審査員へは、申請書類とヒアリング調査結果報告を事前にお読み頂いた上で10月23日の公開審査会に臨んで頂きました。



### 公開審査会までのプロセス

今年度の助成事業は7月中旬に応募要項を公表し、7月22日～8月22日の期間に申請受付を行いました。

(1)高野山真言宗「共利群生活動支援基金」については、下記 URL をご参照下さい。

<http://www.koyasan.or.jp/news/080725.html>

### 助成決定団体・事業

区分	番号	団体名	事業名	所在地
		事業の目的・社会的必要性(申請書類より抜粋、一部補足)		
少額枠	1	色たん と 神戸ころころ	カラーセラピーを広めるために	神戸市垂水区
		下絵から手作りしたぬり絵と、色彩効果で元気の出る画材を使ったカラーセラピーを通じて、子供や高齢者が生きている自分自身の存在を確信できるようになることを目的としている。		
	2	手話サークルたるみ	社会参加支援事業	神戸市垂水区
		ビデオカメラ等を利用し、聴覚障害者にさまざまな情報をよりわかりやすく提供する学習会などを開催することを通じて、聴覚障害者の社会参加を支援することを目的としている。		
	3	フェアトレードひょうごネット	秋のセミナー：映画「おいしいコーヒーの真実」から見えるもの	神戸市東灘区
		映画「おいしいコーヒーの真実」の上映を通じて、その提起する様々なテーマ(「貿易格差」「グローバルゼーション」「飢餓」等々)を、講演とワークショップを通じて考え、フェアトレードの重要性について社会的認知を広めることを目的としている。		

区分	番号	団体名	事業名	所在地
		事業の目的・社会的必要性(申請書類より抜粋、一部補足)		
少額枠	4	朗読ボランティアグループおはなし KOBE	小学校での学級単位の「お話会」活動	神戸市東灘区
		小学校の授業時間に「お話会」を実施することで、子どもたちが絵本や児童文学・昔話の楽しさ・豊かさを味わい、楽しみながら感性を磨き、自然に集中力を身に付けていくことを目的としている。		
	5	多文化交流フェスティバル実行委員会	多文化交流フェスティバル	神戸市中央区
		神戸市内の外国人コミュニティ間の交流を深め、また地域団体との連携を図り相互理解を進めることで、多文化共生のまちづくりに資することを目的としている。		
	6	(特活) COM 総合福祉研究所	子育てサポーター養成講座	神戸市中央区
		核家族化、地域コミュニティの人間関係の希薄化で、孤立しがちな子育て家族をサポートする人材を育成することで、育児不安・育児ノイローゼ、乳幼児虐待を予防することを目的としている。		
	7	国際交流・国際協力支援団体 CLUB GEORDIE	クッキングコミュニケーション～みんなでわくわくお菓子なお祭り～	三田市
		国、年齢、性別などさまざまな異なる文化を持った人たちと考え方や価値観を共有し、異文化交流の大切さを感じてもらい、異文化交流・異文化理解に対し積極的な姿勢を取れるようになることを目的としている。		
	8	うたの街	うたの街	神戸市須磨区
		高齢者・障害者の施設に訪問し、昔懐かしい心に残るうたをみんなで歌い、健康増進と癒しにつとめることを目的としている。		
9	(特活) トータルサポートひょうご	職場のいじめ被害撲滅に向けて～相談事業とシンポジウム開催	神戸市東灘区	
	成果主義の浸透や非正規社員の増加は、職場での「いじめ」を助長し、うつ病や離職・自殺の原因になっており、それゆえに、職場での「いじめ」の被害者の立場に立った相談を聞いてもらえる場所が必要とされているため、相談窓口の設置やシンポジウムを通じて、「大人のいじめ」による被害を無くすことを目的としている。			
10	ひょうご市民後見研究会	市民後見人による障害者・高齢者支援へのチャレンジ その実践と展望	神戸市東灘区	
	親亡き後の障害者、判断能力の低下した高齢者を守るために、専門家だけに委ねるのではなく、一般市民が成年後見制度に関わっていく方を研鑽し、地域の中で市民後見人として活動できる人材を育てることを目的としている。			
一般枠	11	ひょうご福祉ネットワーク	被災者、市民、福祉、生活、法律、税金、健康無料相談活動	神戸市中央区
		主に震災復興住宅で、月一回各専門家による巡回相談と昼食の提供を通じて、各種社会保障の後退による生活苦への訴えに対し相談・アドバイスを行い、適宜問題解決のための支援活動を行なうことを目的としている。		
	12	自立生活センターリングリング	障害者の権利を保障し差別を禁止するための人権啓蒙活動	神戸市兵庫区
		障害当事者が国連の「障害者権利条約」等について研鑽を重ね、地域社会における人権啓蒙活動を進めるための講演会を開き、誰からも差別されることなく地域で生き生きと生活できる真に豊かな社会を実現することを目的としている。		
13	NPO 法人尼崎障害者センター設立準備委員会	尼崎市内障害者団体・作業所・障害者・家族への支援事業および尼崎障害者センター基金の創設と運営事業	尼崎市	
	尼崎市内の障害者関連団体・作業所が集まり緩やかなネットワークを形成し、福祉制度利用相談活動や研修・広報活動などを安定的に担うセンターを設立して、様々な障害者の生活にかかわる問題の解決を図ることを目的としている。			
14	でいんぶる	学校間を越えた学生ボランティアネットワークの構築	神戸市中央区	
	学生中心のボランティア活動へ新しく参加する学生に対し、学校間を超えて学生自身がその魅力を伝える研修を実施し、ボランティア活動体験を通じて人と人のつながりの大切さやリーダーシップを身に付けることを目的としている。			

区分	番号	団体名	事業名	所在地
		事業の目的・社会的必要性（申請書類より抜粋、一部補足）		
一般 枠	15	<b>（特活）ほっとぼっと</b>	かんたんパソコン教室継続発展事業	神戸市須磨区
		パソコン教室の開催やその講師養成の学習会開催を通じて、障がい者自身ができることで社会参加・社会貢献をし、その中で障がい者と健常者の双方が学びあい、わかりあっていける社会になることを目的としている。		
	16	<b>（特活）HIVと人権・情報センター関西支部</b>	青少年向けエイズ教育のピア・エドゥケーター育成	神戸市中央区
		HIV感染拡大が危惧される中、青少年に向け、エイズ予防についての啓発活動を担う同世代のピア・エドゥケーターを育成することを通じて、意識の向上と行動の変容を促すことを目的としている。		
	17	<b>（特活）メリーポピンズの会</b>	”ボランティアがボランティアを育てる”園芸ボランティア養成塾	宝塚市
熟達した会員ボランティアや専門家の人脈を総動員し、種からの育苗を中心に築きあげてきた自立的・持続的園芸システムのノウハウをボランティアによって伝えるタンポポ塾の開催を通じて、人材育成とノウハウの外部公開を実現し、花と緑で福祉・教育施設と地域住民を結ぶことを目的としている。				
18	<b>ひょうごん福祉ネット</b>	制度外の福祉を支える NPO のネットワーク作りと経営力強化事業	神戸市須磨区	
	地域の高齢者・障害者福祉を住民が自ら担う NPO が集まり、経営研究会やワーカー養成講座・共通のホームページ立ち上げの実施を通じて、提供するサービスの質をいっそう高め、同時に NPO としての経営力向上と行政への制度改善の働きかけを図ることを目的としている。			

当日ご出席頂いた審査員の皆さん（順不同・敬称略）

- 山口 一史 = 審査員長  
（（特活）ひょうご・まち・くらし研究所）
- 島田 誠 （アートサポートセンター神戸）
- 清水 勲夫 （（財）野外活動協会）
- 石東 直子 （石東・都市環境研究室）
- 松村 敏明 （（社福）えんぴつの家）
- 北川 創一郎 （毎日新聞社神戸支局）
- 森崎 清登 （近畿タクシー（株））
- 中瀬 勲 （兵庫県立人と自然博物館）
- 相川 康子 （神戸大学経済経営研究所）
- 河口 紅 （（特活）さんぴいす）
- 鷺本 郁 （あじさい基金 - しみん基金こうべを支える会）



草地奨励賞

この賞は、当基金の初代理事であった故草地賢一氏（阪神大震災地元NGO救援連絡会議代表）の長年にわたる幅広い草の根市民活動の哲学と業績をたたえ、その遺志を継いでいくため、草の根支援の見地から見て意義のある活動を活発に展開されている団体に対し授与されるものです。

この公開審査会でプレゼンテーションされた団体の中で惜しくも助成先選考からもれた中から、同日に開催された当基金理事会の選考により、今年度は「第12回たからづか民族まつり実行委員会」に授与することに決定いたしました。



## 新理事のご紹介

去る5月に開催いたしました平成20年度の当基金定時総会にて、下記の方々に新しく理事にご就任いただきました。ここに簡単ではございますが、ご紹介させていただきます。(なお、石本章宏理事につきましては、次回号に掲載予定です。)

### 大谷 敦子 (おおたに あつこ)



舞子地域コープ委員会代表、第5地区総代を経て、生活協同組合コープこうべ理事。

#### 【ひと言メッセージ】

コープこうべの組合員理事として福祉分野を担当しており、その中にボランティア活動やNPO起ち上げの支援をすることも含まれています。それはしみん基金・K O B E の設立精神にも通じるものです。市民が主役の社会貢献の裾野が広がり、みんなが少しずつ歩み寄って力を合わせ、今よりさらに暮らしやすい社会をつくることができればと思っています。よろしく願いいたします。

### 室崎 益輝 (むろさき よしてる)



神戸大学工学部教授、総務省消防庁消防大学校消防研究センター所長を経て、現在関西学院大学総合政策学部教授・関西学院大学災害復興制度研究所所長。

#### 【ひと言メッセージ】

阪神・淡路大震災以降、少しでも安全で安心できる社会づくりをと市民活動に関わってきました。その中で、痛感したことは、活動の基盤としての財政をしっかりとしなければ、ということでした。それゆえに、しみん基金K O B E の取り組みを外野席から応援してきたつもりですが、今回はからずもベンチ入りすることになりました。グラウンドに立てるよう、微力ながら全力を尽くす所存ですので、ご支援ください。

## しみん基金・K O B E の活動報告(2008年7月~2008年11月)

#### 【イベント・講演・研究会等】

7月1日 NPOへの資金提供・助成最適化に関する勉強会  
@東京・日本財団ビル2F、主催:IIHOE  
研修会参加:江口事務局長

7月19日 KECアドバイザー派遣事業・第6回研究会

8月19日 **NPOのファンドレイジングを考えるついで**vol.2  
ゲスト講師:鵜尾雅隆氏  
(株)ファンドレックス代表取締役  
@大阪・ドーンセンター  
主催:(特活)大阪NPOセンター、(特活)しみん基金・K O B E、(特活)ビッグイシュー基金、(株)ヘッドジャパン4en 運営事務局

9月9日 KECアドバイザー派遣事業・第7回研究会

10月9日 KECアドバイザー派遣事業・第8回研究会

10月23日 **平成20年度助成事業・公開審査会**(P2-4参照)

11月14日 緊急学習会「どうなる!市民活動の未来 新公益法人制度のスタートを前にして」  
@大阪NPOプラザ  
主催:(社福)大阪ボランティア協会  
当基金は共催団体のひとつとして参画

11月16日 NPO塾in兵庫 主催:CS神戸

11月20日 第10回先端医療の夕べ  
@神戸臨床研究情報センター  
主催:神戸市・(財)先端医療振興財団  
パネル出演:黒田理事長

11月21日 KECアドバイザー派遣事業・第9回研究会

11月30日 ひょうごボランタリースクエア21  
@三木市立教育センター  
主催:ボランタリースクエア21実行委員会  
当基金は構成団体のひとつとして参画

#### 【会議】

7月7日 四役運営会議:助成事業募集要項・申請書式の確認、助成事業スケジュールの決定

8月28日 **理事会**:10周年記念事業・理事役割分担・認定NPO法人格・先端医療と市民協働委員会について協議

9月11日 四役運営会議:**書類選考、少額枠助成先の内定**

10月23日 **理事会**:助成先の承認、草地奨励賞の選考

11月13日 四役運営会議:10周年記念事業・理事役割分担・先端医療と市民協働委員会・あいウォークについて協議



## ぼたんの会 ~ 1・17メモリアル・コンサート ~

### 竹下景子“詩の朗読と音楽の夕べ” ご案内



大震災から14回目の「1・17」が巡ってきます。今回もぼたんの会実行委員会では、竹下景子さんをお迎えして「1・17メモリアル・コンサート”詩の朗読と音楽の夕べ”」を下記のとおり開催します。

あの震災から学んだ人と人との絆、共に悲しむ心、いのちと平和の大切さを、メッセージとして「詩」に託し、竹下さんにいてねいに朗読していただき、毎年静かな感動を呼んでいます。是非ともお誘い合わせの上、この空間を味わいにお越し下さい。



日時: 2009年1月17日(土)

開場 18:00 ~ 開演 18:30 ~

会場: 神戸新聞松方ホール TEL:078-362-7111

神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情文ビル4階

内容:

- ・竹下景子さん詩の朗読 with 林昌彦さんピアノ演奏
- ・ギター演奏: 鈴木一郎さん

チケット: 前売 ¥2,500、当日 ¥3,000 全席自由席

チケットのお申込みは しみる基金・K O B E でも承っていますので、参会ご希望の場合は当基金事務局までご連絡をよろしくお願いします。

TEL:078-230-9774



「ぼたんの会」とは、文化を通じて新しい社会貢献(寄付の文化)のスタイル確立を目指して、地域の中で大切な役割を果たすように成長してきた NPO・NGO へのファンドレイジングを目的に結成された協働プロジェクトで、コンサートやパーティーなどを企画・開催し、その収益の一部を市民活動やボランティア活動を支える資金として活用するしくみです。当基金は、「ぼたんの会」実行委員会の事務局を担っています。

「ぼたんの会」実行委員会 代表 黒田裕子  
((特活)しみる基金・こうべ理事長)

ぼたんの会実行委員会構成団体: (特活)市民活動センター神戸、(特活)兵庫県子ども文化振興協会、被災地 NGO 協働センター、(財)神戸学生青年センター、(特活)神戸まちづくり研究所、(特活)ゆめ風基金、(特活)しみる基金・こうべ、アートサポートセンター神戸、(特活)コミュニティサポートセンター神戸、移住労働者人権裁判基金、公益信託亀井純子基金、(特活)CODE 海外災害救援市民センター



## 「こうべあいウォーク 2009」のご案内

震災から14年の神戸を、あなたの足で歩いてみませんか? あなたの心のこもった「あい」を少し神戸のボランティア活動にわけて下さい。

1999年に第1回こうべあいウォークを開催し、第3回まで大勢の方にご参加いただきました。その後は1月17日直近の日曜日に集まった有志で毎年欠かさず続けてきました。

2009年は、第1回から数えて10年目を迎えます。ここで再度、市民活動を精神的にも資金的にも支援するという設立の理念を次の世代に受け渡す重要なイベントとして、「こうべあいウォーク2009」を開催します。スタート地点での募金(千円)は、当基金を通じて市民活動へ助成されます。

皆様のご参加をお待ちしております。

開催日: 平成21年1月11日(日) 雨天決行

スタート: 受付9:30~10:30 随時出発

大国公園(JR 鷹取駅南東徒歩5分)

ゴール: 受付11:00~12:00 全行程3~4km 徒歩1~1.5H

みくら5(御蔵北公園北、高速長田駅南徒歩3分)

主催: こうべあいウォーク2009実行委員会

((特活)しみる基金・K O B E、神戸復興塾、(特活)神戸まちづくり研究所、まち・コミュニケーション)

詳細 URL <http://www.kobe-machiken.org/juku/iwalk09.pdf>

申込予約は不要です。当日所定の時間にお集まり下さい。



## コラム・市民社会を支えるお金の流れを考える(3)

しみん基金・K O B E事務局長 江口 聡

前回のこのコラムでは、市民活動団体等における支援者に対する資金調達(ファンドレイジング)活動の中で、会員一人ひとりととの面談活動の大切さについて考えました。ファンドレイジングは、コミュニケーションによって団体への理解を増やしていくとする活動です。最近では、ITを活用したコミュニケーションの役割が大きくなっていますが、それゆえになおさら、フェイス・トゥ・フェイスの対話が重要だということです。

今回のコラムは、そうは言っても重要な、そしてまとまった資金源のひとつである助成金について考えてみたいと思います。

助成金を獲得するのにまず大切なことは、助成する側の「想い」を知ることです。助成する側には、当然ながらその設立経緯から、その組織自身が解決したいと考えている社会的課題があります。いろいろな助成組織がありますが、基本的に助成金の公募は、そのためのパートナー探しをしていると考えて下さい。助成する側の「想い」は必ずしも明確に表現されていない場合もありますが、応募要項やその組織が設立された経緯、審査基準などに反映されていることが多いので、助成金申請の前に必ずよく調査して、自身の活動とマッチしているかどうかを検討して下さい。

その上で、助成金の申請書を書くに当たって重要なことは、その読み手に、将来への「希望」を与えたり、「感動」を呼び起こすことだと思います。助成の申請数は近年増加傾向にあるのですが、諸般の事情により助成金全体での供給総額はあまり増えていません。それゆえに競争率が高い中、「希望」や「感動」がないと印象に残らないというのが実態です。

申請書の書式には、それぞれの助成組織で特徴的なものになっていますが、基本的には以下の3つの要素で成り立っています。

申請する側の組織についてたずねているもの  
(Ex.「団体概要書」)

支援をしてほしい事業・活動の目的・内容・成果をたずねるもの  
(Ex.「事業計画書」)

その事業・活動を行うための予算についてたずねるもの  
(Ex.「予算計画書」)

この中でまず、解決したいと思っている社会的「問題」の所在と背景、それを解決するための手法として申請する事業・活動が選択された理由やその目的、その事業・活動の具体的な内容とスケジュール・実施場所などその直接的な成果予測、それを実施することで得られる中長期的に良い社会的効果を、わかりやすく物語として表現されていることが求められています。

それを前提に、でそれだけのことが行なえる組織体制や資質が整っているのかと、でその事業・活動の実現可能性や整合性がとれているかが、評価されることになると考えて下さい。また、助成金の財源の性格などによって、使途科目などに様々な制限があることに留意して下さい。

申請書を書くことは、普段からの事業・活動を見つめなおすことになり、さらなるステップアップにつなげていくよい機会とらえていただきたいと思います。それゆえに、申請書を提出する前には必ず団体の中で、その申請書について話し合って内容を共有されることをお勧めします。

最後に、助成金はあくまでも一時的なものでしかないことに注意していただきたいと思います。助成する側の「想い」は多くの場合、ひとつのところを支え続けるためではなく、より広く多くの良い社会的影響が産み出せるように、効果的にパートナー探しを行なっていると考えて下さい。それゆえに、助成金は「消費」的に使われることより、「投資」的に使われることが求められています。つまり、団体を巡る資金的循環のパイプを一時的に広げるだけのものではなく、社会的効果が継続して見込めるものがパートナーとして選択されている、ということです。

助成金は、社会をより良く変革するためのパートナーシップのひとつの方法である、と考えていただければと思います。

(つづく)

### <リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法>

古着: オレンジスリフティ

TEL 078-858-7090

〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208

オレンジスリフティ 六甲店

- ・ 上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・ 送付の際は、メモにて「しみん基金こうべ リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・ お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家電・音楽機器・パソコン等の電子機器:

(株)こうべリサイクルセンター リサイクル寄付事業部

TEL 078-303-6201

〒650-0046 神戸市中央区港島中町1-1-14

- ・ 上記お問い合わせ先へお電話下さい。「リサイクル寄付」とお伝えください。
- ・ お電話にて、商品がリサイクル品として再販可能かどうか確認させていただきます。
- ・ 再販可能と判断された場合は、上記のあて先まで宅配便にてご送付下さい。「リサイクル寄付」と明記ください。送料はご負担いただきますようお願いいたします。





13年目のひとり言  
～成長から成熟～



本年12月1日に非営利活動促進法(NPO法)が施行10周年を迎えた。阪神淡路大震災から3年経った1998年3月に議員立法によって成立したNPO法は、「NPO」という言葉を社会に認知させるとともに、社会の一翼を担うセクターとしての重要性を意識させるものであったと思う。また、それまでは民法34条に規定された公益法人(社団、財団法人)を中心とした非営利法人制度の為、任意団体としてしか存在出来なかった市民活動団体が、容易に法人格を取得出来ることとなり、現在では3万4千にも上る団体が法人格を取得している。市民活動のフィールドも多様化し、確実に裾野を広げ、NPOが提供するサービスの多様化、雇用の創出、経済効果等、社会の中においても一定の地位を確保するまでに成長してきた。

一方では、NPOの名前を隠れ蓑に悪事を働く輩も現れ、法の整備や監理・監督の強化が急がれる部分もあると思われる。NPO法施行10周年を迎えた同日に、新公益法人制度が施行されNPO法もそれに伴って改正された。新公益法人制度は民法の法人制度(公益法人)の抜本的な改革となり、「公益」に対する考え方が改めて問われるターニングポイントとなることは間違いないだろう。

この10年間、市民活動は成長を続けて来た。これからの10年は成熟期に入らなければならない。成熟とは、自らの襟を正し、過去を検証し、将来図をしっかりと描いていくことだ。しみん基金・K O B E も、その理念と自らに課された使命を検証しつつ、成熟した団体への道を確実に歩んでいきたい。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 39名 団体 5名

賛助会員 個人 128名 団体 14名

(2008年11月末現在)

寄付・募金合計金額 763,398円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

谷田玲子、石岩健二、於勢國雄、瀬戸口延恵、神田栄治、阿部圭宏、ぼたんの会実行委員会、玉田照子、井上由紀子、山口一史、被災地 NGO 協働センター、オレンジスリフティ

(2008年7月～2008年11月)

皆様に、心よりお礼申し上げます。

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
団体会員 年間 10,000円

お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。



<振込口座>

三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892  
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921  
近畿労働金庫神戸支店 普通 4161854  
郵便振替 00990-5-157334  
口座名義 「しみん基金・こうべ」

はぁ～とふるふぁんど

「ひょうごボランティアあしすと」支援事業・応募開始のお知らせ

平成21年1月より、兵庫県遊技業協同組合及び神戸新聞グループで構成された「はぁ～とふるふぁんど委員会」の21年度「ひょうごボランティアあしすと」支援事業が始まります。しみん基金・K O B E はこの助成事務を毎年受託しています。事業概要は右記の通りです。詳細は後日、当基金ホームページを通じてご案内いたします。お問い合わせ・資料請求は、当基金にて承ります。

支援対象団体:兵庫県内でボランタリーな活動している団体  
支援期間:平成21年5月1日～平成22年4月30日の事業  
支援金額:1事業につき総事業費の4分の3以内、かつ最高100万円まで

申請応募期間:平成21年1月7日～2月28日